

a 学校教育目標	将来をたくましく切り拓いていく力を身につけた生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 信頼される学校 (保護者「通わせて良かった」、生徒「ここで学んで良かった」、地域「母校として誇れる学校」)
----------	-----------------------------	----------------------	---

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
						h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	主体的に学ぶ生徒の育成	授業改善の推進	○R80を基盤とした授業構想 ○主体的な学びの推進 ○ICT及び思考ツールの活用 ○アウトプット型授業の推進 ○年間一人一回以上の研究授業及び相互参観	①「まとめや振り返りでは、R80を使って、相手に伝わりやすい振り返りを行っている」と回答する生徒の割合【R6-89.7%】	90%	87%		97%	B	肯定的回答90%を下回る結果であった。要点をまとめたり、各教科の用語を用いて記述したりすることがに課題があると考えられる。また、R80における相手意識の低さが課題であると考えられる。	要点をまとめることについては、タイトル付け等を通して意識付けする。また、授業者が求めるR80の設定を通して、授業のねらいに対応する記述にせまるとともに、R80のシェアリング、全体交流を通して、発表者としての意識を高める。	○			・全体的には全国平均を下回っているようだが、前年との比較では向上が見られ、2・3年生では上回っている科目もある。基礎基本を重点にした取組を実践されたい。 ・R80の取組が昨年に比べ浸透している。さらにタイトル付けすることにより、思考力・判断力・表現力・論理力の強化につながっていくのではないかとすばらしいことだと思う。
		基礎学力の向上	○「授業構想シート」を活用した授業づくり ○学力調査の結果を活用した授業改善	②実力テスト等で全国平均を上回る生徒の割合。【R6-62%】	70%	57%		82%	B	学年別の結果は、1年生49.5%、2年生70.4%、3年生54.3%であった。各学年3割程度が、平均を10p以上下回っている状況がある。	基礎基本の定着が必要。ミライシード、セミナーや新研究などの取組を継続し、既習内容の定着を図る。小テストなどで細かく生徒の実態把握し、必要に応じて手立てを講じる。	○			
豊かな心	自他を認め合い、共に高まる生徒の育成	発達支持的生徒指導の推進	○異年齢集団活動、生徒の自主的活動の充実 ・全校縦割による清掃活動や各種行事等の充実 ・学校行事、生徒会活動の充実	自己肯定感・自己有用感に関する質問において肯定的評価の割合【R6-86%】	90%	78%		87%	B	生徒会が中心になり、主体的な活動が定着。授業や行事、あらゆる場面で振り返り活動の時間を確実に確保することで生徒同士での肯定的な相互評価が行っていること等が要因にあげられる。	高い位置で保持できているので今後も継続に取組を行う。iチェックのデータともリンクさせ、SCとの連携を行う。また生徒の個別面談等の場面を増やし個別の丁寧な対応や指導を行う。	○			人間関係や社会生活の土台である基本は挨拶でしょう。個々の人格や個性を認め尊重し合える関係を築いていくとよい。
		社会人としての自覚の醸成	○奉仕活動・社会貢献活動の推進 ・献血ボランティア活動・地域や校内ボランティア活動の充実 ・校区内小学校との清掃活動	「主体的にボランティア活動に取り組んでいる」と回答する生徒の割合【R6-69%】	80%	57%		71%	C	献血ボランティアでは、1年生に献血セミナーを実施し、意欲の向上に繋がった。校内では旗揚げ・フラワーボランティア活動を実施した。11月には毎年恒例の小中合同での清掃活動を予定している。	生徒会を中心に活動が定着している。活動の様子を校内で写真や体験の感想を掲示、スライドショーでの報告会等を行い、魅力を伝える情報発信を充実させていきたい。	○			献血ボランティアに積極的に参加し、社会とつながりに貢献できてよい。先生や生徒どうしの交流もあり、生徒の成長につながっている。
健やかな体	自らの健康を自ら管理できる生徒の育成	体力・運動能力の向上、食育の推進、健康的な生活習慣の確立	○新体力テスト結果の分析に基づく体力向上の取組 ○「弁当の日」の取組 ○基本的生活習慣の確立	①平日睡眠7時間以上の生徒の割合【R6-83%】	90%	85%		94%	B	75%の生徒が23時までに就寝することができている。就寝目標達成率も7割にとどまっており、寝たい気持ちはあるができない状況があるようだ。幼少期からの生活が固定化している生徒が多く、一中ブロックでの取り組みを強化していく。	保健だよりで基本的生活習慣について啓発すると共に、保健室来室時に個別の保健指導を充実させる。また、担任と連携して懇談などで健康的な生活について情報発信をしよう。	○			学校だけではできないことがあるので、各家庭が真剣に取り組まなければならないと思います。就寝時刻が遅くなる要因の分析を行い、生徒や家庭が共有し、目標をより意識した取組につなげてください。
信頼される学校	教職員の職務遂行意欲の向上	時間外勤務時間の縮減	○働き方改革の推進 ・部活動休養日、定時退校日の徹底 ○業務の効率化 ○各種行事の見直し	①生徒の完全下校後、2時間10分以内に退校する教職員の割合【R6-75%】	90%	73%		81%	B	45時間を下回る職員は月平均4人となっている。超過勤務の職員が固定化している傾向にあるが、授業準備や行事の取組の対応等での時間外勤務に差が生じている。	退校時間が遅い職員については、仕事内容や方法について把握をした上でよりよいコミュニケーションを図り、効率化・簡素化できる部分を増やしていく。	○			ここ数年で教職員の意識も高まっていることだと思います。時間外勤務時の状況は、特定の教職員によって数値目標が達成できていない現状がある。指導助言を強化するなど改善に向けた取組をお願いしたい。

【j: 自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】

イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。